



2006.11.
プレス民主 編集部
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988(代表)

号外

松戸市・流山市・野田市版



衆議院議員

太田 加ずみ

連絡先【民主党千葉県第7総支部】〒271-0046 松戸市西馬橋蔵元町54 電話 047-346-1313 FAX 047-346-2313



子どもたちの声を政治に届けたい いじめ問題 国会で初質問

いじめによる自殺者はこの7年間で「0件」——。文部科学省のこの調査結果、皆様は信じられますか？

10月19日、私は衆議院の青少年問題特別委員会で質問に立ち、北海道の小学生、福岡の中学生、それぞれいじめが原因で自殺した痛ましい事件をとりあげました。

北海道では教育委員会が自殺の原因がいじめによるものであることを隠していましたし、福岡では一度は「担任教諭の（いじめ）発言が自殺の一番大きな引き金」と語っていた校長が後に説明を翻すなど、「いじめ」を直視しない教育関係者の対応について、私はまず厳しく文科省を批判しました。

いじめを直視しない関係者に怒り

文科省の調査では、確かに一時期に比べるといじめの件数は減っています。しかし、そもそも、この調査は正確なのでしょうか。

事件が起きた福岡の中学校では、実際にはいじめが7件あったのに学校は教育委員会に0件で報告をしていました。こういう隠蔽（ペイ）を許してしまうのは、実は文科省の調査のやり方に問題があるのです。まず、調査用紙を県の教育委員会におろし、県教委は市町村教委におろす。市町村教委は各学校におろす。いじめの有無について用紙に記載をするのは、校長をはじめとする教師ですが、いじめの有

無を子ども一人一人から聞き取るなど実態を反映しているかどうか、分からぬのです。

私は、再発防止へ向け、まず実態を正確に把握することが重要だと思います。そのため文科省による緊急調査を実施するよう質問で提案しました。そして調査方法については、子ども一人一人の声が反映されるように改革するべきだと文科省に迫りました。池坊文科省副大臣は調査方法については早急に改善を検討する、と約束してくれましたので、一日も早く正確な調査が行われるよう注視していきます。

いじめ予防プログラムを授業に

欧米ではいじめに関するビデオや劇、小説を教材に使ったり、クラスで討論したり、ロールプレイによって被害者の気持ちを理解する方法など、さまざまないじめ予防カリキュラムが開発されています。質問では、こうした進んだ授業を取り入れるべきだと文科省をただしたところ、副大臣も「授業の中に取り入れる工夫をしていきたい」と約束しました。

いじめの本質は、いじめに加わる加害者の意識が薄いことです。どうか皆様も家庭でお子様といじめについて真剣に話し合ってほしいのです。子どもの周りでいじめが起こっていないか。子どもが加害者になっていないか。学校、家庭、社会をあげて、いじめをなくす取り組みを進める必要があると痛感しています。